

一般常識講義録②

三権分立 1955-1968

関連サイト

天皇の被災者訪問

<http://www.youtube.com/watch?v=FSxB3AEyfDM>

参議院見学

<http://www.sangiin.go.jp/japanese/taiken/movie/index.html>

下級裁判所

<http://www.youtube.com/watch?v=wnb9GanGZq0>

青年海外協力隊

<https://www.youtube.com/watch?v=yIsKbZL6MP4>

ベルリンの壁

<https://www.youtube.com/watch?v=ePKQIYJT5Dw>

ベトナム戦争

http://www.youtube.com/watch?v=4qds_gmvA_tU

黒部ダム

<http://www.youtube.com/watch?v=LBupHRIuShA>

イタイイタイ病

http://cgi4.nhk.or.jp/eeco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_archives_20060827_1786

四日市ぜんそく

http://cgi4.nhk.or.jp/eeco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_archives_20060827_1785

水俣病

http://cgi4.nhk.or.jp/eeco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_archives_20060827_1784

高田の独り言

天皇—国民統合の象徴

東京を訪れる外国人観光客の多くが、皇居前広場に行くようです。城マニアの私としては、日本の城郭についてお話ししたくなるのですが、どうやらあそこは江戸城である前に天皇のお住まいである、と認識されているので天皇についてお話しすることになるようです。

実際中国人にしても韓国人にしても、「天皇」という名は聞いたことはあっても、具体的になにをするのか、どんな人なのかわかっていません。日本国憲法によって「国民統合の象徴」となっていると直訳しても意味は通じないでしょう。

「国民統合の象徴」という言葉を私が初めて聞いたのは中学1年の頃だったと思います。その時の先生が「この言葉の意味は先生もよくわからない。君たち、これからこの言葉について話す人がいたら、どんな意味なのか聞いてみなさい。」とおっしゃいました。なんと頼りのない先生だと思ったのですが、今思うとそれは非常に正直な思いだったのでしょうか。以降30年近く、私もこの意味が理解できませんでした。ようやく分かったのがこの度の東日本大震災が起こってからです。



↑震災復興を願う絵馬（鶴岡八幡宮）

日本大震災の二週間後、私は1日かけて鎌倉の神社仏閣を歩いていたのですが、普段は外国人観光客だらけの鎌倉で、明らかに外国人だと思える人は6名しか見られ

ず、観光客のほとんどが日本人という状態でした。神社仏閣の絵馬をみたら、内容の多くが東日本大震災の被災者の生活が安定することを祈るもので、見る限りこれらはほぼすべて日本語（日本人がほとんど）による願いでした。

その際に立ち寄ったラーメン屋のテレビで、その日天皇夫妻が福島から東京に移った被災者を、慰問している様子が放映されました。被災者の国民にひざをついて励ます様子は、まさにその日鎌倉の絵馬に書いてあった国民の願いを体現しているかのような感じでした。うまく説明できませんが、天皇が「国民統合の象徴」というのは、このような際に国民の願いを具現化することにあるのではないかと思ひ、28年来の疑問が氷解しました。

永田町界限散策

山陰、関西、沖縄と西日本各地に住んできた私が30代半ばになって東京で住み始め、最も「東京らしい」と感じたところは他にもない永田町です。新宿や渋谷、六本木などを小さくしたような街並は他の街にもありますが、政治の中心としての永田町は、日本でここにしかない場所だと思います。お堅いイメージで見られがちですが、この街を歩いてみると今回の学習内容が深く理解できる場所がそろっています。

まずは地下鉄国会議事堂前駅で降りて、首相官邸に向かいましょう。この辺りは特に警官だらけです。ここは一般開放していません。外から眺めるだけです。黒塗りの車が来た、と思ったら総理大臣や国務大臣たち、あるいは外国の要人だということがよくあります。

方向を変えて国会議事堂に向かいましょう。衆議院は見学できませんが、参議院は平日の国会がない日なら、毎時00分から約1時間にわたって見学できます。参議

院の議場にはいると、毎日のようにニュースで見られる議場風景が見られます。日々のニュースでは分かりませんが、この天井はステンドグラスになっていたり、柱や壁には美しい彫刻がほどこされていたりします。双眼鏡があれば、遠くからこれらが楽しめます。次に御休所という、天皇の控室があるのですが、ここがまた素晴らしい工芸の粋を集めた作りになっています。天皇の控室があるなんて、やはり東京だと思いました。その次には中央広間というところを見学するのですが、この空間も全体的に1930年代の工芸の粋を集めたもので、細かくまでこだわった装飾を見るためにも双眼鏡必携です。

最後に建物の外に出ると、議事堂全体が見渡せます。1936年に建てられたこの建物は、吉林省の長春などにも多い「興亜様式」あるいは「帝冠様式」という、ビルの上にアジア風の屋根をつけた独特な様式です。都内では上野の国立博物館や、両国の復興記念館、築地の西本願寺などに見られる様式ですが、いずれも1930年代に建てられ、40年代には造られなくなった貴重なものです。



↑ 憲政記念館議員席レプリカ

さて、国会正門前を徒歩で数分北上すると、憲政記念館があります。ここでは国会の歴史について学べるだけでなく、議員席に座って総理大臣の演説が聞けるといふ議場体験コーナーもあります。

さらに数分北上すると最高裁判所です。ここは事前予約が必要です。小中学生と一

緒にならない限り、非常に静かです。始めに裁判制度に関する映画を見てから見学ですが、裁判を行う所は重厚な感じはするのですが思ったほど広くありません。衆議院選挙のときに最高裁判所裁判官の国民審査があるのですが、まったく聞いたことのない人ばかりで、多くの人が不信任にしようがありません。そのため形式主義的だとの批判があるといいます。私もここで初めて投票用紙以外で最高裁判所裁判官の名前が一人一人書かれているのを見ました。

重々しい裁判官の中でも特に心に残ったのは「正義の女神」像です。片手に正邪をはかる天秤を、片手に力を表す剣をもったこの像は、「剣なき秤は無力、秤なき剣は暴力」に過ぎず、法はそれを執行する力と両輪の関係にあることを表しています。そして法は貧富や権力の有無に関わらず万人に等しく適用されるとの「法の下での平等」の理念を表します。



↑ 正義の女神像(最高裁判所)

この他、永田町近辺には国会図書館や国立劇場の伝統芸能情報館など、通訳案内士試験学習に役立つ見所が多く、お勧めのスポットです。

「三丁目の夕日」の時代

今回学んだ1950年代後半、すなわち昭和30年代の日本の生活を半世紀後にアニメや映画にしたのが、「三丁目の夕日」で

す。急速な工業化に伴い、人口の半分を占めていた農民たちが都市に移住し、年平均10%の経済成長が続き、それでいて人間関係が密な時代。これを見ていると、自分時代の少年時代と同時に21世紀初頭の中国を思い出さざるを得ません。しかもこの時代には例えば粉ミルクに毒物が入っていたり、来週やるのですが公害問題が起こったりと様々な問題が出てくるのですが、これらの負の側面までそっくりです。

今の中国を見るときに私だけでなく日本人の多くがこの時代を意識的、または無意識的にイメージしているのではないのでしょうか。そしてこれは中国だけではなく80年代の台湾や韓国でも似たような様相を呈しています。アジアの発展の過程が好むと好まざるとにかかわらず日本型になってしまったのかもしれませんが。

一方当時の日本とは大きく違う何かがあることにも気づき、その「何か」こそが中国らしさ、韓国らしさ、と我々は認識しがちかもしれませんね。ちなみに日本に外のアジアを訪問した日本人の多くが、現地の光景を見ながら「これはあこのころの日本と同じだ、でもここが違う。」などと考えていることは、現地の人たちはあまり気づいていないようです。

50年代から60年代の

アメリカポップカルチャー

私は十代の頃、50年代のロックンロールと60年代前半のアメリカンポップス、そしてビートルズが大好きでした。特にロックンロールとアメリカンポップスに関しては、かなりマニアックな方かもしれません。80年代半ば、中高生だった私は、25年早く生まれなかったことを恨んだほどでした。

ロックンロールは一般的には白人が黒人音楽を取り入れてできたといわれます。

そしてロックンロール最初の大スターというやはりエルビス・プレスリーでしょう。

初期のプレスリーは、バーボンの香りでもいいでしょうか、アメリカ南部の黒人音楽に接した下層の白人たちの雰囲気为一体となっています。この音楽のもつ不良っぽさが嗅ぎ取れるでしょうか。実はそのころは白人が黒人音楽を聴くだけで不道德だったのです。そこで、そんな社会を変えようとしたのがキング牧師たちだったわけです。そしてこのキング牧師らは、インドのガンディーさんの理想、非暴力不服従の原則に従って行動し、見事公民権を勝ち取ったわけですね。

ケネディ大統領の時代は、不良っぽさが都会的に洗練されて、アメリカンポップスがヒットします。55 年体制下の親米政権を樹立した日本でも、これらを日本語でカバーして歌いました。

しかしケネディ大統領暗殺後、内には人種差別問題、外にはベトナム戦争を抱えた米国に生まれた若者が、love&peace を標榜したライフスタイルで知られるヒッピーです。20 代の方から「ヒッピーってどんな人？」と聞かれたのですが、行き過ぎた科学技術を否定し、自然と平和と東洋思想を愛し、麻薬をするけど反戦運動もする人たち、と答えておきましょう。

思うに、原発反対運動や環境保護運動、LOHAS、ヨガ、座禅など、このヒッピー文化の「原液」は薄められてはいますが今も色々な方面で見られます。そういえば私も10代から20代にかけて、バックパッカーとしてアジアや米国を放浪したり、ガソリンを使わず自転車で日本や米国を縦断したり、座禅をするために沖縄の禅寺に入ったり、沖縄で米軍基地を困んで辺野古基地ヘリポート移設に反対したり、出雲で百姓をやって過ごそうと試みたり、かなりヒッ

ピーでした。そしてこれらヒッピーやその子孫たちの共通言語がビートルズであったことも付け加えておきましょう。



なお、昭和三十年代の日本の若者たちがあこがれたアメリカの姿を体験したい方にお勧めなのが、六本木などにあるライブハウス KENTOS です。先日久々に以前の生徒さんと遊びに行きましたが、神武景気、岩戸景気、そしていざなぎ景気のころに青春を送った「元」若者たちで大変にぎわっていました。当時の空気が非常によく再現されています。

アジアの独立

日本がポツダム宣言を受諾するまで、日本からインドまでのアジアにおいて、他国からの政治経済的な干渉を全く受けない独立国はタイなどの一部を除いてほとんどありませんでした。みな欧米や一部ソ連、日本の支配を受けていたのです。しかし終戦直後の46年にはフィリピンが、47年にはインドが、48年にはセイロン（スリランカ）が、48年にはビルマと南北朝鮮が、49年にはインドネシアが独立し、中国大陸に中華人民共和国が成立しました。この流れは50年代も継続するわけですが、日本が米英と戦う1941年以前にほとんどが植民地であったことを考えると、日本の行った戦争の結果を考えずにはられません。

一部の右翼たちは、「大東亜戦争」の目的は東亜を植民地から解放することだからだ、というかもしれませんが、「敵は本

能寺にあり」で、本当の目的が石油などの物資の禁輸問題を解決するためということは明らかです。しかしそうでありながらも結果として日本の敗戦後わずか10年でインド以東の国々が大部分独立したのです。

ただ、別の視点から日本の「功績」を述べるならば、大東亜共栄圏を作ろうとしたことよりも、欧米による堅固な植民地体制というシステムを破壊してしまったこと自体にあると考えます。日本敗戦の十年後、インドネシアのバンドンで開かれたアジア・アフリカ会議により、日本以外のアジアが久しぶりに世界の表舞台に立ちました。そしてアジア・アフリカ会議からさらに10年後に始まったベトナム戦争では、結果的に米国の物量作戦にアジアの最貧国、ベトナムが勝利し南北ベトナムが統一され、同じころシンガポール、香港、台湾、韓国といった中国文化の影響を受けながらも政治的には中華人民共和国と離れている資本主義国・地域がNIEsとして経済発展してきます。日本が成し遂げできなかった「大東亜共栄圏」はここでようやくある程度成し遂げられたのかもしれませんが。

しかしまあ、これは日本人が言うべきことではないでしょうね。「俺はこんなにいいことをしたんだ。」というのは美意識的に評価されにくいからです。

アジア国家発展のプロセスのモデル

日本の1950年代から60年代にかけての動きは、後のアジア諸国の発展プロセスに大きな影響を与えました。そのプロセスとは①経済発展をとげ、巨大な建築や世界最速の交通機関を作ること。②オリンピックを開くこと。③仕上げは万博をひらくこと。という順序です。

五輪開催の都市は首都で、万博はその次に重要視される都市で行います。日本は

50年代から経済発展をとげ、その勢いで64年に東京五輪を開き、OECDに加盟しました。アジアにおける五輪は単なるスポーツの祭典ではなく、ある程度経済力を備えた自国が世界にデビューする、いわば国威発揚の晴れ舞台なのです。そしてそれに合わせて新幹線のような最先端のテクノロジーを導入したり、黒部ダムや高層ビルのような巨大な建造物を造ったりするのです。仕上げに70年には大阪万博によって海外からの観光客に半年間日本の先進技術をみてもらうという感じです。

大阪万博がおわったころ韓国は漢江の奇跡と称される経済発展を遂げ、アジアNIESの一角を担います。そして88年にソウルオリンピックを開催し、それに合わせて国内では85年に東洋最高のビル、63ビルを建てたりしました。93年には現在首都機能の一部を担う大田で科学万博が行われ、会場内をリニアモーターカーが走りました。

ソウルオリンピックが行われていた80年代から急速な経済発展を続けた中国は2008年に北京オリンピック、2010年には上海万博、そしてそれに合わせて国中で超高層ビルが建ち並び、リニアモーターカーや新幹線が開通したのは周知の通りです。

このようなプロセスを最初にやったのが日本でした。60年代、80年代、2000年代と20年周期ぐらいで行われるアジアオリンピックですが、今回は十数年後、どこで行われるのでしょうか。そしてその時にはこの「日本式」がまだ採用されているのでしょうか。